☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　2017

毎日新聞　平成２９年５月２２日（月）

災害時対応を多言語で紹介

丹波 8カ国170人が交流

3高生 カルタやクイズも

市民と市内在住の外国人が触れ合う国際交流プロジェクトが21日、丹波市氷上町本郷のポップアップホールで開かれた。市内3高校の生徒たちも参加し、地震が起きた場合など、いざという時の対応方法を外国語で披露するなどした。【丸井康充】

柏原ロータリークラブや市国際交流協会など8カ国約170人が参加した。

県立柏原高の生徒は「あわてない」「助けて」「痛い」「もうだいじょうぶ」など、地震が起きた時に役立つ言葉を中国語、ポルトガル語、ベトナム語などで紹介した。氷上高や氷上西高の生徒もカルタやクイズなどを通じて地元の特産品を紹介した。また、外国人たちも民族舞踊を披露。会場から大きな拍手が送られた。

柏原高3年で社会奉仕系クラブに所属する采女和嘉子（うねめわかこ）さん(18)は「その国の人から事前に発音などを教わったので、よい発表ができた。喜んでもらえてよかった」と話していた。

丹波市内に住む外国人は現在、約700人。市は外国人と共生するまちづくりを進めている。

カルタで丹波市を紹介した氷上西高の生徒ら
＝丹波市氷上町本郷のポップアップホールで